

# エンタ 目

笑福亭 たま

落語はテレビやインターネットなどで、知識としては何となく知っている人も多いが、生の落語を体験していない人の方が多い。何かを「知っていること」と「体験すること」とは全然違う。例えばエクレアのチョコの部分を下にして食べるとチョコの味わいが強くなるのだが、それを知識として知っているのと体験するのでは全然違う。それと一緒に一緒である。

## ■ 落語は生がおいしい! ■

あるのかと思った。テレビの笑いとは全然違う笑いがそこにあった。この面白さをどうにかして世間の人に伝えたいと思い、落語家になった。

しかし、世間の人に体験してもらわないとこれが伝わらない。学生時代、彼女に「自分が君をどれほど愛しているか」を伝えようとしても、伝えきれないような気持ちだ。

では「エクレアのチョコの部分を下にして、一度食べてみたい!」と思わせるのと同様に「落語会に一度行ってみたい!」と思わせればええのかという、そんな簡単な話でもない。

実は面白い落語会と面白くない落語会があるのだ。飲食店でもおいしくない店とおいしい店があるのと一緒だ。

## ぜひ出かけて味わって



チョコを下にしてエクレアを食べてみせる筆者

「こんなマズイ店がなぜ長く続くのかわからない」というのと一緒で面白くない落語会も結構ある。最初は運だが、複数行くとアタリに出合う。

私が言いたいのは「本当に面白い落語会を体験してほしい」ということだ。まあ、それも縁でしかないのだが…。

また落語にも江戸落語と上方落語があり、これも体験し

ないと違いがわからない。全く食べたことのない人に「たい焼きと今川焼きの『味』の違い」を説明するより難しい。そして私は自分がどんな落語をしているかを自分自身では体験できない。だから私は自分の落語を説明もオススメもできない(笑)。どんなもんなんやろっねえ。(落語家)次回掲載は五月二日)

しょうふくてい・たま 1975年、大阪府貝塚市生まれ。98年に京都大経済学部卒業後、笑福亭福笑に入門。古典も新作も手掛け、「ショート落語」という小噺(こばなし)集も高座に掛ける。2004年度文化庁芸術祭新人賞、17年度国立演芸場花形演芸大賞。15年から名古屋でも独演会を年4回のペースで開催している。